

## 2019年室内環境学会学術大会報告

大会長 三宅 祐一（静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科）  
 実行委員長 徳村 雅弘（静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科）

### 1. 大会報告

2019年室内環境学会学術大会は、2019年12月5日（木）、6日（金）の両日、沖縄県市町村自治会館において開催いたしました。また、日本・韓国・台湾の3カ国の室内環境学会共催の国際シンポジウム『Novel assessment and control technology of indoor air quality in Asian countries』も開催いたしました。室内環境学会は、前身である1994年9月の「室内環境研究会」設立から25周年を迎えたため、本年度の学術大会は、設立25周年に加え、令和最初となる記念すべき大会となりました。

本大会では、発表は168件（ポスター発表104件、口頭発表64件）、大会参加者は307名、機器展示には15社にご協力をいただきました。また、25周年企画として東京ダイレック株式会社様にはポスター説明時の軽食配布、柴田科学株式会社様にはランチョンセミナーの開催にご協力いただきました。沖縄での開催ということもあって、室内環境学会の学術大会に参加したことのない方の参加も目立ち、新しい出会いを楽しむことができました。

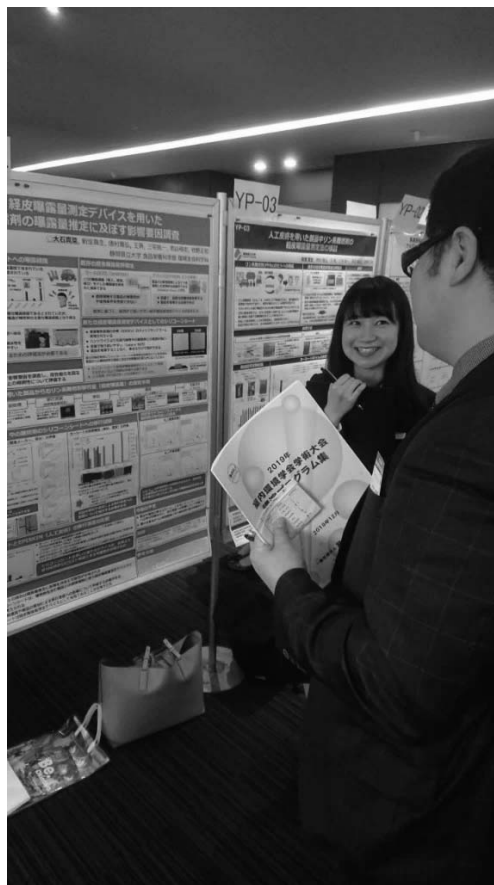
新しい方を含め、多くの方に参加していただき、盛会に終了することができたことに対し、理事会、学会事務局、そして実行委員の皆様にご感謝を申し上げます。2020年室内環境学会学術大会は、2020年12月3日から5日にかけて、福島県の郡山市で開催される予定です。



ポスター講演の様子



口頭発表の様子



ポスター発表の様子



国際シンポジウム講演者との交流会の様子

## 2. 沖縄建築と住環境の視察報告

エクスカージョンについては、4名の参加者よりレポートしていただきます。

最終日の12月7日（土）に、エクスカージョン「沖縄建築と住環境の視察」が行われました。沖縄県南部を半日で回るAコース（14名）と、北部を1日で回るBコース（25名）に分かれ、いずれも沖縄県コンベンション開催支援事業の補助を受けて実施されました。バスツアーでいくつかの世界遺産や施設などを回り、沖縄の自然を感じながら参加者同士で意見を交わし、沖縄の住環境や生態について楽しく、有意義に学ぶことができました。ここでは、それぞれのツアーの模様と感想を学生会員と一緒に報告します。

（東京学芸大学・萬羽郁子）

### A. 南部半日コース〔ガンガラーの谷ガイドツアー・おきなわワールド見学〕

ガンガラーの谷は、約1万8000年前に生きていた「港川人」の居住区とされています。空から落ちてくるようなガジュマルの木の根は、とても圧倒される大きさで、自然のパワーに圧倒されました。また、おきなわワールドでは、全長5000 mで国内最大級といわれる天然記念物の玉泉洞を見学しました。湿度は高かったですが、とても神秘的な空間で、鍾乳洞は3年に1 mmというスピードで今もなお成長しているという事実には驚きました。自然に触れながら、歴史を感じることができ、非常に貴重な時間を過ごすことができました。

（静岡県立大学・新堂真生）

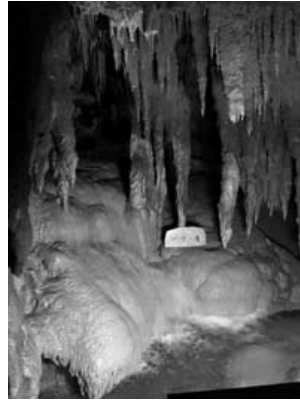
### B. 北部1日コース〔今帰仁城見学・美ら海水族館見学〕

前半に見学した今帰仁城跡は、沖縄本島の北部にある歴史的なグスクで、なだらかな曲線を描いた城壁が勇壮でした。視察の日はいにくの天候でしたが、インターネットやガイドブックでは決して見ることができない、貴重な今帰仁城跡の表情を見ることができました。

（東京学芸大学・齊藤早紀）

今帰仁城見学の後には、美ら海水族館へ行きました。ウミガメへのエサやり体験や、ジンベイザメの泳ぐ巨大水槽の前での昼食など、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

(静岡県立大学・齋藤未菜美)



ガンガラーの谷 (左) とおきなわワールド (右)

今帰仁城跡 (左) と美ら海水族館 (右)



強風の中の視察の様子